

第4回

南相馬市まち・ひと・しごと

創生有識者会議

会 議 録

南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議

第4回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

会議の名称	第4回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議			
開催日時	平成27年10月24日(土) 13時30分開会・15時30分閉会			
開催場所	南相馬市役所 本庁舎3階 第一会議室			
委員長	高木 亨(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)			
委 員	移住者代表 副委員長		武藤 琴美	
	原町青年会議所	理事長	杉内 亜希	
	原町青年会議所	総務委員会委員長	和田 智行	×
	小高商工会	青年部長	片岡 太成	×
	鹿島商工会	青年部長	若松 真哉	×
	原町商工会議所	青年部副会長	松本 卓真	×
	原町地区連合会	議長	諸橋 誠敏	×
	A.C.ハマーズ2001	副会長	原田 正己	×
	A.C.ハマーズ2001		仲野内 勇作	
	ひよこサークル		福崎 歩未	
	原町第一小学校PTA	会長	谷田部 真敏	
	あぶくま信用金庫本店営業部	融資係主任	遠藤 敬志	×
	移住者代表		鈴木 聡子	
	南相馬みらい創造塾	卒塾生	佐藤 まゆみ	×
事 務 局	復興企画部	部長	安部 克己	/
	企画課	部次長兼課長	植松 宏行	
		課長補佐 兼企画係長	涌井 秀之	
		企画係主査	藤原 道夫	

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 南相馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

企画課主査

資料に基づき説明。

委員

戦略をつくるために必要なデータは十分人口ビジョンに含まれていると思う。特に出生率と移住者が重要だというデータは重要である。これらが総合戦略の土台となる。

そのうえで、この総合戦略に書かれていることが南相馬市特有なことかという、そうは見えない。南相馬市特有の政策の基本的な考え方が見えてこない。個性的なまちをつくるためには、市民の思いを一つにしなければならないが、そういったところに全く触れていない。原発事故の影響について、人口や産業が減ったという部分には触れているものの、線引きされてお金（賠償金）がもらえる人ともらえない人が発生し、もめ事が起きているといった、全市民が思っているであろうことが全く書かれていない。ここを乗り越えないと、南相馬市のコミュニティが再生するということにはならないと思う。だからと言って全ての人を平等にするための政策が打てるかという、それは無理だと思う。市民の心を一つにするためには、市内で全ての市民と接点を持つ唯一の団体である市役所が、心を一つにするための政策を明確に出すべき。今示されている内容だと、平凡な過疎化に向かっている自治体と一緒にいる。南相馬市は違う。国に勝手に線引きされて分断されたまちである。南相馬市民自身が仲良くしたくないと思ったわけではない。せっかく南相馬市の歌もつくってこれからさらに仲良くしていこうとしていた矢先に、国によって壊されてしまった。そこが、南相馬市が置かれている状況の非常に大きなところだと思う。これらの状況を克服するために事業を実施したり、国や他の団体に説明するときに、これらの状況について書かれていなければわからない。このことは明記すべきである。

総合戦略にはまちの個性が出るはず。ところが今回示された総合戦略には個性がない。ここにあるのはどういうまちが暮らしやすいかという非常に平均的なイメージである。そこで一つ提案だが、この有識者会議が始まって以降、会議の中で野馬追の話が出なかったことはない。相馬野馬追は重要無形民俗文化財に指定されていることから、この重要無形民俗文化財について調べたところ、様々な分野で指定されており、相馬野馬追が指定されている「娯

楽・競技」分野では、全体で約300指定されているうち、9個しかない。しかも、「娯楽・競技」分野の中でも相馬野馬追のようなものはほかにはない。世界に目を広げても、内モンゴル地区で騎馬競技を行っているくらいである。これは大変すごいことで、世界遺産並みだと思う。このまちの人は自覚がないかもしれないが、イベントが好きなんだと思う。このまちでは演劇サークルはあまり活動していないが、踊りやお祭り、野馬追のサークルはたくさんある。これだけ見てもとても個性的なまちであり、こういったことを盛り込まないのは非常にもったいない。

企画課長

今回の戦略については、人口増、移住・定住の拡大に的を絞ったものとなっている。ただいまご指摘いただいた点については、内部の人間にとっては日常のことであり、言われるまで気づかない部分も多くあった。ご指摘を踏まえ戦略に反映させていきたい。

委員長

今回の総合戦略は、国が示したフォーマットに基づきつくるもので、まちの個性を盛り込みづらい仕組みになっていると受け止めている。このことからこのまちでも似たような戦略となっている中で、どこまでまちの特徴を盛り込んでいけるか。要するに定住のために相馬野馬追を役立てられるかがポイントだと思う。

委員

定住に役立てるといっても、野馬追を守っていくために人が必要なんだと思う。野馬追を維持していくためには参加する人ばかりでなく、甲冑師、馬を育てる人、旗指物をつくる人が必要。日本に一つしかない野馬追を守っていくのは私たちしかいない、そういう責任を感じているということを感じて盛り込むべき。

委員長

今の意見をそのまま書き込むのは難しいかもしれないが、方向性としては面白いと思う。

委員

野馬追には様々な職人が携わっているが、例えば甲冑師の方を博物館で雇用することはできないのか。美術館であれば壊れた美術品を直す人を雇用している。世界的にもそういった美術館は多い。日本でも一つくらい甲冑師を雇う博物館があってもいいのではないか。それを伝統文化を守っていくための手段の一つとして国に訴えるということがあってもいいと思う。

のまたんやディネードも相馬野馬追がなければ生まれなかった。野馬追を

どのように広げるか、どう広がるか、可能性は無量大である。

委員

人口目標について、ビジョンを見ると人口減少対策を講じても2040年には1万人以上減ってしまうという目標設定は、市民としてはピンとこない。近隣の避難市町村からの避難者を南相馬市が独り占めして人口を増やすという考えがあってもいいのではないか。

市内に技術専門学校のテクノアカデミー浜があるが、昔に比べると生徒数が半分ぐらいに減っている。学校では専門的な技術を学んですぐに社会に出られる優秀な生徒がたくさんいるのに、非常にもったいないと思う。四年制大学では得られない技術や知識を習得できるということを周知して、もっと生徒数を増やす努力をすべきだと思う。

委員

子育て環境の充実と高齢者が活躍できる社会づくりをかなえる取り組みとして提案がある。定年を迎えて数年が経過した保育士資格、幼稚園教諭の資格を持つ方、資格がなくても興味・関心がある人を受け入れられる「現代の子育て・孫育て講座（仮）」を設け、この講座を受けた方の中からパートタイムでもいいので保育園や幼稚園で働いてもらうというシステムをつくってはどうか。前にも話したが、昔と現在では子育ての手法が違ってきている。例えば赤ちゃんをお風呂に入れるときに、昔は耳にお湯が入らないように指で耳の穴をふさぐと教えられていたようだが、今は耳に負担をかけるため、ふさがなくてよいと教えている。ほかにも最初は手づかみ食べが推奨されているが最初からスプーンを持たせたり、体温調節のために裸足でいるのがよいとされているが、無理に靴下をはかせる祖父母がいるとの話を聞く。特に母乳育児に対する理解が低く、ミルクによる育児を薦め、早く働かせようとする親世代もいる。そういった世代に現代の子育てを学べる場を設けてほしい。

WHOでは科学的根拠をもって2歳以上まで母乳をあげたほうがよいとしており、市立総合病院でも母乳育児を推進している。そのような指導を受け自信を持って育児を始めたにもかかわらず、親世代から否定されれば、一緒に住みたくもなくなる。若いママたちが笑顔で子育てできるよう、親世代に子育て・孫育てを教育する機会があれば、今後若い人が増える南相馬市になると思う。

委員

その親世代の感覚こそが南相馬市民の特徴だと思う。伝統を守るということが体に染みついている。変える、新しいことに取り組むということにあまり関心がない。だからこそ野馬追を長い間守ってこられたという面もあると思う。今後は伝統を守りつつ新しいことに取り組みたくなるような仕掛けが

必要。ただ、変えないという気質の人に新しいことを取り入れてもらうようになってもらうことは、とても難しいことだとは思ふ。

委員長

例えばそういった講座を受けた人に対して、市としてお墨付きを与えるということも周りの見る目を変えるためには有効なことかもしれない。

委員

この総合戦略(案)を読んだ印象としては、きわめて平均的な内容で大事なことは入っているものの、まちの魅力はあまり伝わってこない。相馬野馬追に参加する人、そうでない人の両方と関わると、地元であっても野馬追を観たことがないという人も結構いて、すごく対照的という印象がある。「南相馬イコール野馬追」というイメージはあるものの、では全市民が誇りに思っているかというところまでは言えないというのが現状だと思う。

私が南相馬に来て感じるのは、全体的な文化度はそれほど高くないということ。伝統を守らなければいけないと全市民が思わないと何かをやろうという動きにはならない。その中でこのような対照的な状況を見ると、だから何か新しいことをやるのが難しいのだろうと感じる。その辺りがこれだけ歴史のある相馬野馬追がそれほど広まっていけない理由なのではないかと思う。

単に人口が増えればいいのかということも考えなければならない。人が増えても活気がないまちもあれば、人は少なくとも住民が地元を誇りを持って活気のあるまちもある。地域の人口を増やすということは、他の地域から人を奪うことであり、それだけの魅力を持つことが大事だと思う。

委員

総合戦略(案)を読んだ印象としては、私もよく見る内容だと思った。その中で、何か特徴的なもの、際立つものがあれば印象は違ってくるだろうと思う。今回は新しいものをつくるという企画なので、例えば南相馬市は子育てに日本一適しているとか、何か一番を目指せるようなものが欲しいと感じた。一番というのは目につきやすいので、何か一つでも一番のものがあれば目先を南相馬市に向けられ、住んでみようかという対象に挙げられる可能性も高まると思う。

今の南相馬市は負のイメージが強く、悪いイメージは拡散しやすい。そういった中で、他県から南相馬市に移り住むことで何かプラスになるような施策が一つでもあればいいのではないかと思う。

先ほどテクノアカデミー浜の話が出たが、実は私は卒業生である。震災前は倍率が5～6倍ほどで、少人数で徹底的に技術が習得できる学校だった。それが現在ではずっと定員割れしている状況で、以前は会津地方からも入学する人がいたが、今はそれもない。そういった状況を変えるために、ロボット技術や農業技術を学べるような、地元で根付くこれまでとは違った学科を

増やすことが有効なのではないかと思う。

委員

テクノアカデミー浜では、計測制御工学科が短期大学の位置づけとなっているが、この分野はこれからの浜通りにとても適した学科であり、地元根付いた学校になり得るものと考ええる。

委員

青年会議所では相馬野馬追を広く知ってもらうため、子どもたちを対象に絵を描いてもらっている。これはいずれ子どもたちに戻ってきてもらう、このまちを好きになってもらうことを目的に行っており、地元で展示するほか、全国のJCと連携し、全国各地でも展示してもらう取り組みを行っている。この絵を見た全国各地から、ぜひ本物の野馬追を観たいという声を毎年いただいている。こういったことから、現状ではPRが不足しているのではないかと思う。PRの方法をもっと上手にすれば、南相馬を訪れてみたい、南相馬に住んでみたいという人は増えると思う。

委員長

いろいろな意見が出された。今回の総合戦略はその性質上なかなかこういった意見を反映しにくい面もあるかと思うが、とても示唆に富んだ意見が多かった。事務局にはできるだけ出された意見について、総合戦略に反映させるよう要望する。

(2) 有識者会議提言書について

委員長

次に(2)有識者会議提言書について、前回も少し話に出たが、今回の総合戦略は、委員から出されている細かい話まで反映することが難しい仕組みとなっている。ただ、せっかく出された多くの意見をそのまま眠らせてしまうことはもったいないため、何らかの形でまとめていければと考えている。委員から意見を出してもらう前に、事務局から提言書の例として資料が提出されているので、まずは説明を求める。

企画課主査

資料3に基づき説明。

委員長

今委員の手元にあるものはあくまで一例であって、私が考えたのはアイデア集をつくれないうこと。この会議で出された意見をアイデア集という形にすることで、記録として残るとともに事業構築の際のアイデア

としても活用してもらえないのではないかと思います。

事務方にこれまでそういったものはないかと尋ねたところ、お手元の「提案事業例及び担当課検討状況一覧」が出された。これについても説明願いたい。

企画課主査

資料に基づき説明。なお、これらの事業提案から実際に事業化に結びついたものも少なからずあり、行政にとって事業の種を一つでも多くいただけることは大変ありがたい、事業化の可能性も大いにあることを併せて説明。

委員

予算が許すのであればプロモーションビデオ（PV）をつくるのがいい。

委員

PVもいいが、他の地域の人が見るときにあまり時間が長いと飽きてしまうため、CMがいいのではないかと思います。何パターンか制作し、15秒～30秒で簡潔に伝えられれば効果的だと思う。また、原町高校の放送部が全国的にも有名なため、連携するのも良い。

委員

先ほど委員長から提案のあったアイデア帳のようなものがあると思う。これからアイデアを募って、趣旨目的を簡潔にまとめたうえで最終的に市長に提出するというのがあると思う。

委員長

これから募るといっても、これまで有識者会議の中で出された意見をまとめるという手法でよいのではないかと思います。

委員

出されたアイデアを全て飲むというのは難しいことから、特に推したいものを絞って提案するというのもいいと思う。そのほかにアイデア集として残すことはいいと思う。提供した種がいずれ花開けば、この会議を開いた意義も感じられる。

ほかにこの会議を開いてきたことを市民に伝えることも必要。広報紙にホームページへの誘導記事を載せるとか、フェイスブックで情報提供するとか、一つに絞らずに様々なメディアに広げていくことも有効ではないかと思う。

委員

アイデア帳のような形がいいと思う。それもあまりカッコリしたものではなく、簡潔に箇条書きで書いたものであれば、すぐに手に取りやすく、例

えば複数のアイデアを結びつけて一つの事業にするといったこともしやすくなると思う。まとめるというよりも、出された意見を提示するという形がいいと思う。

委員

素晴らしい意見がたくさん出されているので、それをきちんと伝えられる形であればいいと思う。

委員長

私が思っていたのは、ここで出された意見が行政だけで止まってしまっはもったいないなということ。できればこれらのアイデアをオープンにして、民間を含め誰でもやりたい人がいればここから持って行ってもらって結構ですという形がいいと思う。

どういった形にするかは、私と事務局で相談させていただき、次回案を示していきたい。

4 その他

(1) 次回開催予定について

事務局

当初の予定ではこの有識者会議については全5回の開催としていたが、残り1回で結論に達するのは難しい。最後の開催が1月というのは変わらないが、その前にもう1回、12月辺りに開催させていただきたい。開催時期についてはできるだけ早くお知らせすることとしたい。

委員

了。

5 閉会